

令和3年度 第1回グローバル・フードバリューチェーン
推進官民協議会全体会議
令和3年11月5日（金）

オンライン方式

「知」集積と活用の場

「未来茶業」研究開発プラットフォーム

プロデューサー： 角川 修

管理運営機関： 農研機構果樹茶業研究部門

「未来茶業」研究開発プラットフォームの概要

チャの新品種開発

「せいめい」



抹茶・粉末茶

「サンルージュ」



機能性品種

省力生産技術



ロボット茶園管理機

スマート農業実証



生産情報の一元化

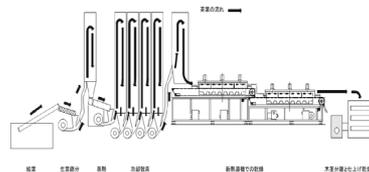
未来の茶業を検討するため、農研機構、都道府県の公設試、大学および民間の各機関が参画し、産学官連携により、チャの新品種開発や画期的な省力生産技術、加工・流通技術等、茶生産システムに関わる研究資源および知識の集積につとめ、効率的かつ効果的な運用を図る。

製茶・加工技術



付加価値加工

30%コスト削減



省エネ新型
てん茶ライン

海外輸出



輸出対応型防除

海外輸出を拡大



活動内容

★茶に関するシンポジウム、セミナー、ワークショップなどを開催して会員間で情報を共有し、具体的な課題を解決するための研究コンソーシアム設立し、プロジェクト化する。

活動事例

オンラインシンポジウム (zoom)
「茶におけるスマート農業の現状と課題」
(農業試験研究推進会議研究会に協賛)

内容：

茶生産を対象にした「スマート農業実証プロジェクト」4コンソーシアムが、実証した技術や取り組みを紹介。総合討論で参加者からの質疑応答。

開催日： 令和3年9月14日

参加者： 308名

会員等

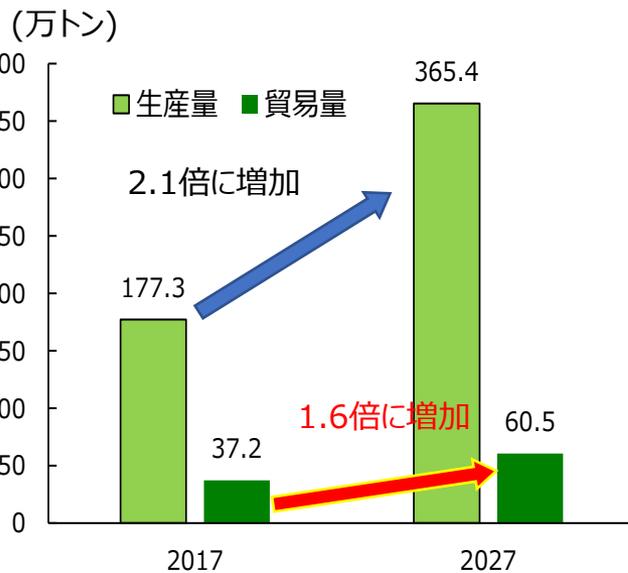
プロデューサー
農研機構 角川 修

会員数	24
大学・高専	3
公設試（都道府県）	12
民間企業等	8
国立研究開発法人	1

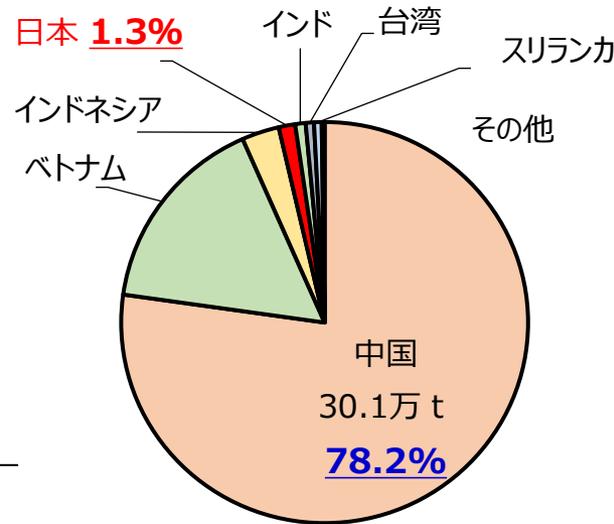
日本茶の輸出の現状（その1）

日本茶輸出の現状

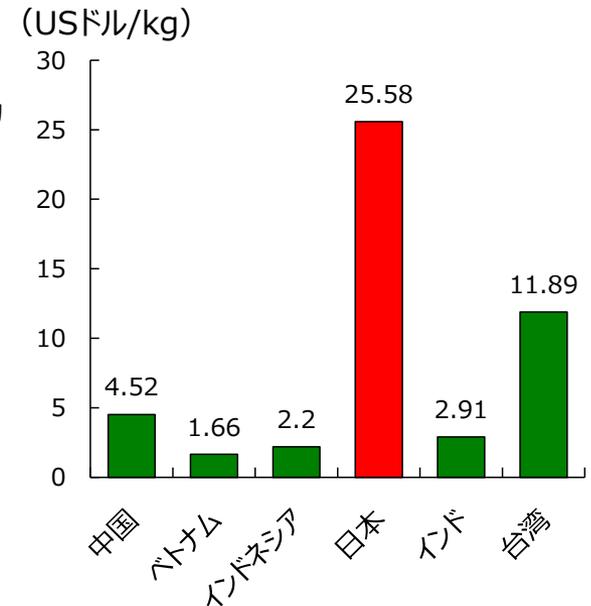
- ★世界的に緑茶生産量と貿易量は将来的に増加すると予想される。
- ★緑茶の輸出は中国が78.2%を占め、日本は1.3%。
- ★日本茶の持つ文化的な背景と品質の高評価により、輸出茶単価は世界で最も高い



緑茶の生産量と貿易量の将来予測
(FAO茶に関する政府間グループ資料)



世界における緑茶の輸出量
(平成30年)



茶生産国の輸出茶単価
(平成28年)

「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」では、令和7年の日本茶海外輸出目標は312億円/年、品質に優れる日本茶輸出促進が必要。

輸出対応型防除体系

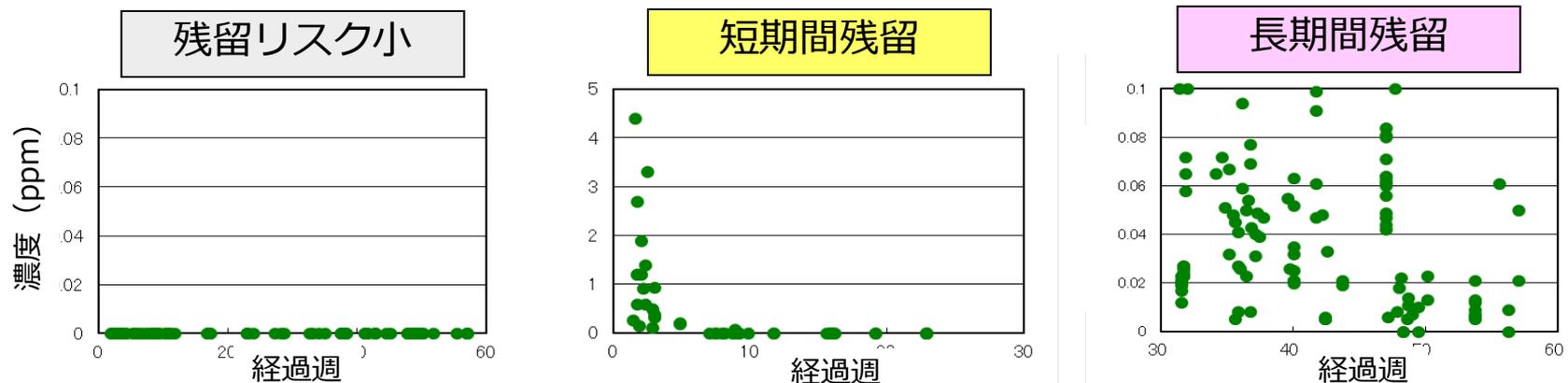
茶輸出拡大IPMコンソーシアム

農研機構、静岡県、福岡県、宮崎県、鹿児島県、(株)伊藤園

- ★ **農薬残留基準値 (MRL)** は各国で異なる。非生産国ではチャで登録されている農薬が極めて少なく、それが国際的な流通の障壁に (FAO茶に関する政府間グループ)。
- ★ 輸出実績が多い米国、台湾、EUを対象に、**輸出対応型防除暦を現地実証**。

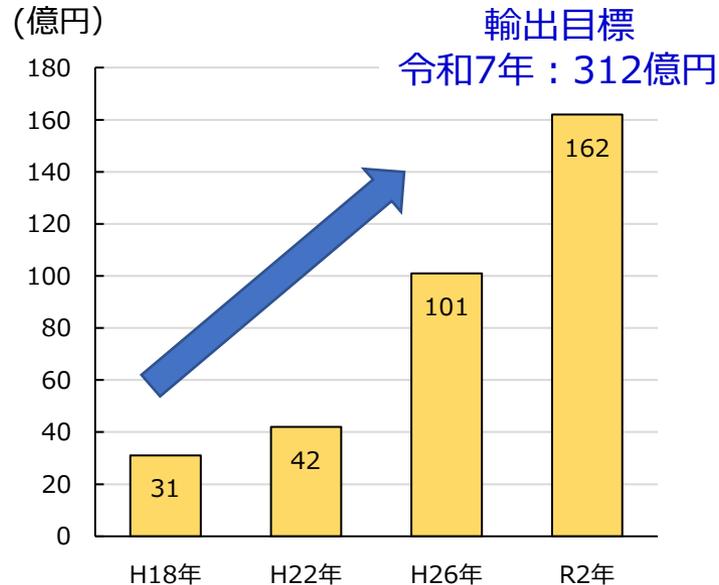
〈輸出ターゲット国ごとの防除暦の開発と現地実証〉

輸出ターゲット国のMRLを調査し、農薬残留リスクも考慮して使える農薬を選んだ防除暦を開発、現地実証する。茶サンプルの残留農薬を一斉分析して適合性を検証。



日本茶の輸出の現状（その2）

日本茶海外輸出実績と国際的な抹茶の需要予測



日本茶海外輸出額は年々増加

令和2年日本茶輸出実績値

輸出先	輸出額 (百万円)			単価(円/kg)	
	粉末状	その他	合計	粉末状	その他
米国	6,098 (72%)	2,338 (28%)	8,436	4,438	4,123
EU (含む英国)	1,301 (53%)	1,139 (47%)	2,441	5,995	2,724
アセアン諸国	426 (55%)	353 (45%)	779	2,603	1,963
世界合計	9,903 (61%)	6,284 (39%)	16,188	4,170	2,168

輸出される日本茶は粉末状（抹茶・粉末茶）の比率と単価が高い。

- ★国際抹茶市場予測：令和2年34億米ドル⇒令和9年53億米ドル
- ★年平均成長率：6.4%
- ★Covid-19感染拡大下でも、抹茶需要は堅調。 Global Industry Analyst Inc., 2021/04/01

抹茶・粉末茶の需要が高い。

品種

緑茶新品種「せいめい」 (農研機構育成)

- ★被覆栽培 (抹茶) で多収、製茶品質に優れ、輸出向け防除体系で栽培可能
- ★「せいめい」栽培・加工技術 標準作業手順書 (SOP) 公開 (令和2年)



被覆栽培
(遮光して、色合い・うま味を高める)



「せいめい」一番茶園相



てん茶



石臼等で
微粉末化



抹茶

品種	テアニン (g/100g)	てん茶入札価格
せいめい	4.56	5,059円/kg
やぶきた	2.60	1,369円/kg

R2年てん茶実績 (米国向け輸出栽培)

高級抹茶で含量が高いアミノ酸のテアニン含量が慣行栽培でも多く、入札価格が高い

品種	殺虫剤 殺ダニ剤	化学合成殺菌剤 (EU使用不可)
せいめい	8	不要
やぶきた	8	4 (必須)

病害に強く、化学合成殺菌剤が使用できないEU輸出向け防除体系で栽培可能

「せいめい」の産地を形成し日本茶輸出拡大を目指す

国際標準化活動

「抹茶の定義」（農研機構）

- ★ **国際標準化機構（ISO）** 茶分科委員会（ISO TC34/SC8）に参加。
- ★ 農林水産省農産局および業界団体と協議の上、茶種の規格、茶に関する分析法を検討するとともに、規格開発にも取り組む（平成21年～）。

〈ISO静岡会議で「抹茶」をアピール〉



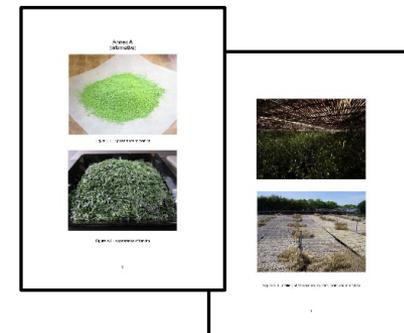
★平成27年ISO TC34/SC8静岡会議において、外国産で単に茶を粉末にした偽物が急増していることを説明し、「**抹茶の定義**」の必要性をプレゼン。

★日本提案で、ISO TC34/SC8にワーキンググループ「Matcha」設置（令和2年2月）

〈技術レポート「抹茶」発行へ〉

技術レポート「抹茶」

ISO TC34/SC8委員会文書として令和4年2月に発行予定。



「**抹茶**」が**日本起源の技術**と明記し、日本の代表的な「**抹茶**」の栽培・加工法を英文で紹介

募集

★お茶の生産に関する専門家が集まったプラットフォームです。

★当プラットフォームの活動に関心をお持ちの方や入会手続きなどについてのお問い合わせは、プラットフォーム事務局（農研機構 果樹茶業研究部門 茶業連携調整役）にお願い致します。

事務局E-mail : cha-pf@ml.affrc.go.jp

担当： 農研機構 果樹茶業研究部門 茶業連携調整役